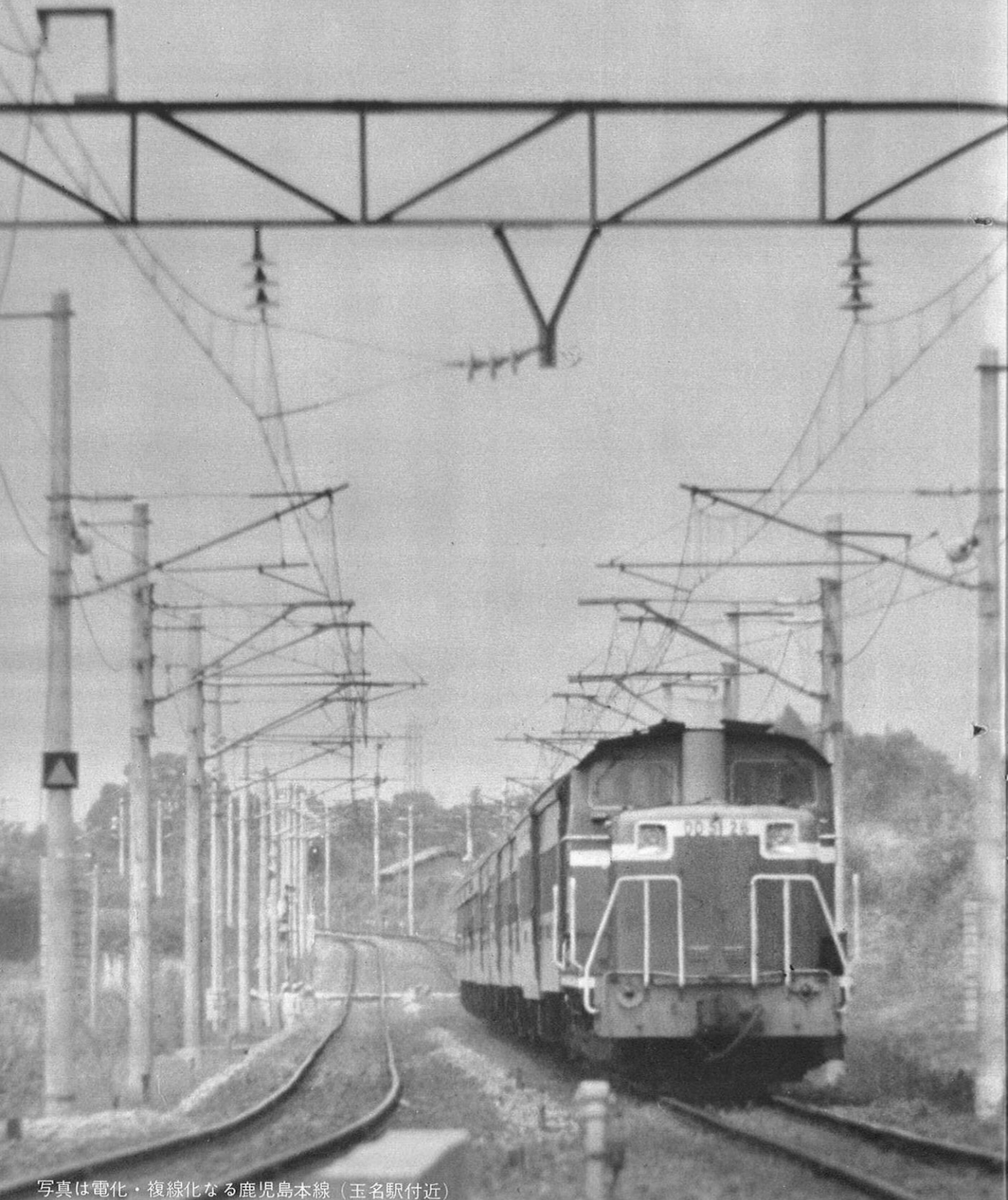


北城進む開発



写真は電化・複線化する鹿児島本線（玉名駅付近）

地区名	位置	関係面積	取水方法	取水施設
白石堰掛り区	左岸	200畝	白石堰からの自然取水	旧白石堰
土地改良区	〃	1919畝	ポンプ揚水	150馬力 5台
小田郷区	〃	〃	〃	50馬力 1台
土地改良区	右岸	167畝	〃	5馬力 1台
玉土名間区	〃	〃	〃	200馬力、100馬力
土地改良区	〃	1005畝	〃	50馬力 各1台
計		3291畝		

管理費が非常に困難な状態となっていたのである。

以上のような現施設を統合し、維持管理費および営農努力の節減をはかり、さらに開田二〇六畝、畑地かんがい一八八畝、湧水、小河川に水源を求めていた用水不足水田二六三畝の用水補給を含む県下で最大の規模の土地改良事業計画となつたのである。

なおこの事業には、先に述べたように菊池川河口の有明海に造成中の国营横島干拓の用水および従来右岸河崎揚水機場で迫間土地改良区と共に揚水していた三

井鉾山KKの工業用水も本事業計画に抱合した一大事業として、昭和三十六年着工したものである。

事業のあらましと進み方

☆受益面積 四、三六四・五畝
 △内訳▽水田 三、四一・五畝
 開田 二四六・〇
 畑かん 一二七・九
 補給田 九九・一
 干拓 四八〇・〇

☆生産効果 一〇、八一三・六六石
 （米換算）

☆総事業費（昭和四十年年度現在）
 一五億五、八九〇万円

△内訳▽
 土地改良 一二億三、〇〇〇万円
 干拓 一億八、一七〇万八千円
 災害 一億四、七一九万三千円

以上の事業費および事業内容で昭和三十六年着工し、現在まで工事費で五億六、三三四万四千円を投入し頭首工（白石堰）一カ所と、第一号幹線水路三、三二七畝を施工し、特に本年度は、県においても事業効果の早期発生のため債務負担行為により昭和四十二年のかがい時期までには、小田郷揚水機場までの水路の施工を終り、約二、〇〇〇畝の用水が新頭首工からの用水によってかんがいされる予定である。今後本事業が一年でも早く完

茶の間の読書、で村づくり



— 玉名郡三加和村の読書運動 —

いま、県下に「茶の間の読書運動」が広がられつつある。現代は、最も密接であるべき家族の人間関係をも疎外しようとしている。ことに、農村では、働き手の流出、高令化・女性化が進み、子供たちも都会の鍵っ子どころではない。

そこで家族ぐるみの読書習慣によって、よりよい人間関係を培い、心豊かな人格を形成しようというのがこの運動のネライなのである。さらにこの運動は、我が家の茶の間から、向う三軒両隣りと交流しあい、地域全体の生活秩序をつくりあげていくことに掲げようとしている。

県立図書館がこれまでに指定した読書運動のパイロット地区は、本渡市、鹿本郡植木町、玉名郡三加和村の三カ所。すでに、それぞれの地区で、この読書運動は根を下ろし、三加和村では、読書グループの数も六〇を超え、県下随一の読書活動を誇っているのであるが、村の重点事業として、総合社会教育を掲げ、その一連

成しその効果を期待したいものである。

玉名平野のほ場整備

本地区の現況は、干拓事業で逐次造成されたものであるため区画は一応整形されているが、一〇〇畝未満の小区画があり加えて農道は幅員が狭く農作業の機械化を妨げている。なお、用水は田越かんがいが行なわれ肥培管理が不十分である。従って今後このような諸条件を改善することによって農業生産性を向上させ農業を近代化することが緊要である。

以上のような趣旨から県においても、昭和四十一年度から大規模ほ場整備事業

の課題としてとりあげている点が注目される。いま、農村が直面している問題は農業の近代化と農村の体質改善だが、近代化をめざして、農業基盤の整備、資本整備、農業団体の強化等々、そのために解決すべき課題も多い。しかしながら地域内の生活秩序あるいは人間関係の不完全さが、問題解決を困難にするひとつの隘路になつていないか。

三加和村は、新しい村づくりはまず人づくりから、としたのである。つまり農村青年を育てるための郷土学級、多彩な活動を続ける婦人学級、そして、茶の間の読書運動、これらが総合的に結びあわせ、三加和村の振興開発という一本の大綱にない上げられようとしているのである。

こととして第六集となった文集「みかわ」には、一〇〇篇を超える生活の記録が、農民の意見がギッシリ収録されている。三加和村の読書運動がもはや「読書」のみにとどまらず、村をあげた郷土づくりの歩みをはじめていることを物語っているようだ。

調査に取り組んで行く方針である。本年度は三、四九〇畝について、土壌調査、水利調査等を行ない、将来本地区の経済立地に沿った営農基本計画の調査を進める予定である。

即ち大型機械作業体系と近代化施設利用の営農計画を樹て、水路の用排水を分離し、幹田化をはかり標準は区を三〇四畝（三〇〇畝）四〇〇畝×一〇〇畝）標準地区画を三〇〇畝（二〇〇畝×三〇畝）に整形し、農道は幹線五・六畝、支線三〇四畝の幅員の道路網と、夫々の区画に用水路、排水路を完備し、大型機械の導入体制を整えたいと考えている。